2026-2-6

制服を大切にする理由

3年1組26番　松本 萌依

Keyword: 「制服」「リサイクル」「環境汚染」「エシカルファッション」「ファストファッション」

1. はじめに

私が衣類のリサイクルに興味を持ったのは、高校2年生の春に見つけたある環境問題についての記事がきっかけだった。その記事には、近年インターネットの普及によって実店舗以外でも手軽に安く洋服が買えるようになった一方で、社会では衣服の大量生産•大量消費という大きな環境問題が起きていると書かれていた。実際に、まだ着られる服が何着もあるのに新しい服を買ってしまい、結局１年間一回も着なかった服がいくつもあることに心当たりがあった。それでも、この問題の深刻さを自分でこの記事を読むまで知らなかったし、日本ではあまり問題視されていないように感じた。そして、この問題を国際高校でも発信したいと思い、このテーマを選んだ。このような大きな環境問題は、身近な問題だと意識することが難しいので、洋服ではなく「制服」に置き換えることで身近な問題として意識してもらえるのではないかと考えた。また、中学校で制服のリサイクルを率先して行なっていたことを思い出し、その取り組みを国際高校でも実施したいと思い、「制服のリサイクルボックスを設置する」という取り組みを始めた。

2. 序論

環境省のホームページによると、1枚の服を作るのに二酸化炭素の排出量が500mlのペットボトルが約255本製造分必要で、水が浴槽11杯分必要になる。そんな中、1人あたりの衣類消費•利用(年間平均)は、購入枚数が約20枚、手放す服が約14枚、そして１年間一度も着用せずタンスに眠っている服が約23枚もある。このうち手放された服は古着としての販売などリユース•リサイクルされているものが38%で、可燃ゴミ•不燃ゴミとして廃棄されるものは62%にものぼるという結果が出ている。また、環境問題だけにとどまらず、労働問題や、人体の健康への問題も懸念されている。服の大量生産の背景には長時間労働、低賃金、確保されない安全性などの問題があり、あるバングラデシュの工場で働く労働者は、「私が作るレギンスは、私の1ヶ月の給料よりも高い値段で販売されている。」と話す。また、近年では基準値を上回る有害物質が、服から検出される事例もあった。有害物質は体内に蓄積し、ホルモンバランスに影響を与えるものや、発がん性のあるものなど様々な種類があるため、人々の健康に悪影響を及ぼす可能性があると指摘されている。

私はこの結果を知り、国際高校の生徒が着用していた制服についてアンケートを取った。1つ目の「中学の時に着ていた制服はどうしているか」という質問に対しては61.8%の生徒が『保管している』と回答し、25.5%の生徒が『誰かにあげた』と回答し、残りの12.7%の生徒が『捨てた』と回答した。そして2つ目の質問の「今着ている制服は卒業後どうする予定か」という質問に対しては72.4%の生徒が『残しておく』と回答し、18.4%の生徒が『誰かにあげる』と回答し、8.2%の生徒が『捨てる』と回答した。この質問では『捨てる』か『残しておく』と回答した生徒に理由を書いてもらうようにした。理由の中では「記念になる」や「捨ててしまうのは勿体無い」、「残してても邪魔だ」という意見が多かったが、そんな中「処分方法がわからない」という意見もいくつか出てきた。最後の「もし制服をリサイクルできるシステムがあれば利用するか」という質問では、半分以上の65.8%の生徒が『はい』と回答した。

このアンケート結果に基づき、国際高校で制服の回収、管理を行っている水本先生に制服を回収していて困った点などを聞いた。水本先生が国際高校で、卒業生から制服を回収しているのはリサイクルするためではなく、国際高校に来た留学生に貸し出すための制服で、毎年卒業前に生徒を通じて制服回収の手紙を渡すが、昨年度は一着しか集まらず、留学生の制服が足りなくて困っているそうだ。私は水本先生にお話を聞くまで留学生に制服を貸し出すために制服を回収

していることを知らなかった。グローバル探究のグループ内発表や、周りの友達に制服を回収する取り組みを既に行っていることを知っているか聞いてみると誰1人としてこの取り組みを行っていることを知らなかった。また、このプリントは文字が多く、少し堅い印象があり、一度読んだだけでは内容が頭に入りにくいと感じた。そこで私は、「制服が集まらないのは、そもそも回収をしていること自体が知られておらず、回収してもらおうという意識が生まれていないのではないか」という仮説を立てた。卒業前にプリントが1枚配られるだけで、それ以外の告知はなく、生徒も内容をよく読まずにカバンに入れたり、そのまま無くしてしまうこともあるだろう。そこで、制服回収の取り組みを何度も視界に入れて意識してもらうために、ポスターを制作し、3年生の各教室に掲示してもらうことにした。

3. 本論

ポスター作りを始めたのは高校3年生の春からだ。実際に作ったポスターは右に掲示しているもので、卒業前に生徒に配られるプリントに書いてあることと同じことを簡略化し、目につきやすく、読む気が湧きそうな優しいカラーで印刷する工夫を行った。このポスターは1学期に掲示し始めたが、実際に2学期で行ったグローバル探究のグループ内発表では、同じグループのみんながポスターの存在に気づいてくれていて、制服の回収にも積極的な反応を示してくれた。また、卒業する前にも学校から昨年配布したものと同じプリントを学校から配布してもらう予定だ。制服の回収方法は、各家庭でクリーニングした制服を実際に学校に持ってきてもらう方針だ。

また、ポスター掲示以外にも2つ実行したいことがあった。一つ目は文化祭で全校生徒にも意識を持ってもらうために各学年の廊下にポスターを貼ることだ。二つ目は、3期生が卒業するタイミングに合わせて卒業前の呼びかけや、卒業時の制服回収に、もっと積極的に動きたかったことだ。だが、当時はまだどのようなことが問題で、どのように行動したらいいのか、何を解決するべきなのかなどはっきり分かっていなかったので大きな行動に移すことが難しいと感じた。

今後の予定は、4期生が卒業するときに去年の1着を大きく超える枚数の制服を回収することだ。また、5期生や、6期生にもこの取り組みを引き継ぎしてもらったり、制服のリサイクルを国際高校の一つの文化や伝統として今後も定着させていきたいと思っている。

4. 結論

学年全体に一斉に告知することはできなかったが、教室でのポスター掲示や、横につながる交流会、グローバル探究でのグループ発表など、小さな場ではこの取り組みを発信することができた。そのため、学年全員ではないものの、意識づけについては昨年より進められたのではないかと思う。今後の課題は、現在の4期生だけでなく、他の学年や中学生にもこの取り組みを知ってもらうことだ。また、現在は高校の制服のみを回収しているが、成長期で身長がすぐ伸び、サイズが変わりやすい中学生にも手軽に自分に合った制服を着てもらえるようにしたい。さらに、中学校から高校の6年間を通して服に関心を持ち、「服を大切にする」という意識を国際中学校・国際高校の生徒に広めていけるよう、今後も積極的に活動を続けていきたいと思っている。

5. おわりに

　制服のリサイクルと言う身近なものを通して環境問題に取り組み、自分ごととして捉えるきっかけを作ることができてよかった。また、この経験は私にとって大きな挑戦であり、いろいろな人と関わり探究する難しさや、継続することの大切さを学ぶ機会となった。自分が2年間頑張って探究してきたことが一時的な活動で終わってしまうのではなく、国際高校全体に広まって、一人一人が自分ごととして意識してくれるようになると嬉しいなと思った。
　幼い頃からさまざまなことに興味を持つ一方で、すぐに飽きてしまうことが多かった。また、目立つことが苦手で、人前での発表にもずっと消極的だった。しかし、このグローバル探究を通して、高校2年から3年にかけて1年間かけて1つのテーマをやり遂げることができた。さらに、グループ発表や横のつながりを深める交流会でも、堂々と1人で発表できるようになり、自分の成長を感じた。これからは、このグローバル探究で培った力を無駄にせず、さまざまな場面で活かしていけるよう努力していきたい。

6.　参考文献・出典

https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/　サステナブルファッションとは 環境省HPより 2025年9月22日閲覧

https://www.greenpeace.org/japan/news/fast-fashion-environmental-impact/#heading-2 ファストファッション問題とは? 環境に与える影響、私たちにできること　国際環境NGO グリーンピース・ジャパン2024　2024年12月27日